

ユネスコ・生命倫理コア・カリキュラム、2011  
『利益と害についてのケースブック』2

ケーススタディー2-9：未成年者の治療—10代の未成年者における美容外科

翻訳 伊東美佐江

Sは、両側の女性化乳房、すなわち拡大した乳房組織として知られる状態を持つ17歳の少年である。彼の仲間たちからの嘲笑によって起こるひどい当惑や苦悩を避けるようと、Sは決して泳がず、決して海辺へ行かず、決して彼の胸を人目に触れるかもしれないどのような活動にも関わらなかった。

学校で体育のある日は、Sにとって特に難しかった。彼はついにかかなりの量の体重を減量し服のサイズも8サイズ小さくなったけれども、Sの女性化乳房は追い払えなかった。だからSは、彼の状態が他者にみえるかもしれない状況を避け続けた。そのうえ、彼は他州の大学への入学を許可されたけれども、嘲笑の対象とされるような寮に住むのを望まなかったのので、その大学に進学しないと決心した。

Sの小児科医であるG医師は、Sの奇形とその結果として生じる情緒的な痛みを除去するために外科手術を勧めた。G医師によると、処置は医学的に必要であった。

**Sは美容外科を受けるべきか。**

ここに、すべてではないが複数の考えられ得る解決法がある。これを他の解決案と共に議論しなさい。倫理的な論点を明確にして、あなたに最も当てはまる解決策をその理由とともに定めなさい。

**NO** Sはまだ未成年であり、医学的に必要とされないどんな外科的処置も受けるべきではない。彼の奇形に対処することにおける困難さは精神衛生的な処置によって治療することができる。

**YES** 外科手術はSの利益のためである。彼の外見を改善させるだけでなく、典型的な青年として役目を果たす可能性をも提供するだろう。

本ケースについてのノート

判決

本事例は地区の民事法廷で審議され、Sの父親が、拡大した乳房組織を除去するためにSに行われる外科処置のために被告側である健康保険会社からの償還を要求した。法廷は、Sの外見を改善させるために乳房切除術が第一義的に意図されたけれども、そのような改善自体が目的ではないと指摘した。むしろ、それは、Sが普通の青年として役目を果たすことができるという目的のための手段であった。

分析的考えると、外科手術が選択的で美容的かの決定は、Sの奇形に起因するどの程度の「機

能欠損」かの範囲に左右された。Sの障害は、彼の胸を他者にあらわにするようなあらゆる状況への恐怖という形をとった。彼の恐怖のせいでSは正常の思春期と関係する多くの活動を避けた。多くの青年は実在するあるいは想像される異常に起因する感情的な動揺による活動を避けるけれども、Sの女性化乳房は、大きな鼻、重いにきび、青年期の女性における小さい胸よりは内反足や口蓋裂に、より類似していて、他覚的ではっきりと把握される、動揺の異常な原因であった。他覚的で実体的なこれらの後半の状況（訳者注：内反足や口蓋裂を示す）は相対的によく見られ、しばしば選択的な美容的治療へ導かれる。

青年の精神的健康は、知覚する異常に対する青年の反応の範囲を決定する重要な役割を担っている。だから、異常が小さく、心理的な理由で青年の反応が大きく不合理な例であるかもしれない。そのような事例では、心理的治療がむしろ外科処置より適応されるかもしれない。比較して、Sの異常は小さくなく、全く適切であったとはいえなくても、それに対する彼の反応は理にかなっていた。そして明らかにSの情緒的障害に対する精神的理由は何もなかった。実際、被告側の医師の一人は、Sは彼の状況から「精神的苦痛」を経験していると信じるのは「確かに理にかなっていた」と認めた。

これらの理由のために、被告は、乳房切除術が選択的でもなく、美容的でもない証拠が優勢であること示すべき立証責任を果たすことができなかった。むしろ、外科手術はSの異常や機能障害を除去するために医学的に必要な治療であった。

## ディスカッション

一般的に、美容外科の目的は、生命を助けるというよりはむしろ人の外見を改善することである。しかしながら、ひとの外見の改善は顕著にひとのQOLを改善し、ひとに情緒的に利益を与えることができる。

未成年における美容外科の事例では、我々は、その処置が子どももしくは青年に利益を与えるか否か注意深く検証しなければならない。未成年を含めて人々はときどき身体的外見に嫌悪感を抱いている、そして、美容外科は、特に潜在的な損害や障害のリスクが大きくなければ、彼らに非常に利益を与えることができる。

本事例の患者は17歳であり、彼に提示される処置を理解し、そのような処置の成り行きに重みをつけるには十分に成熟していることはほとんど疑わない。患者の見解は本事例では非常に重要である。（乳房切除術を受ける決定における、彼の、もしくは彼の役割に関する診察について、何の記述もない。しかしながら、本手技が彼の希望に反して行われたと信じるのは困難である）

ティーン・エイジャーの未成年を扱うとき、我々は患者を引き入れ、彼／彼女の価値や感情により、彼／彼女が状況にどの程度の重要性を置いているかを理解するように努めるべきである。もし、未成年がその状況を気づくだけに十分な年であり、その状況が彼／彼女の日常生活を妨げているので処置を希望し、彼／彼女が同僚と一緒に活動したり体験するのを妨げているのであれば、美容的処置を実行するには倫理的であろう。